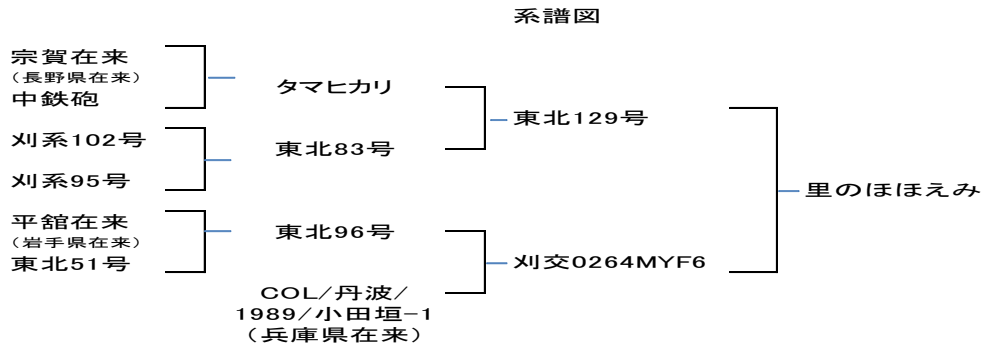


認定品種候補 大豆「里のほほえみ」の品種特性

埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所

1 品種の概要

(1) 来歴



「里のほほえみ」は、ダイズモザイクウイルス抵抗性で大粒・良質品種の育成を目標として、(独)東北農業研究センターにおいて平成8年に「東北129号」を母親、「刈交0264MYF6」を父親とする組合せから育成された。

耐倒伏性、機械化収穫適性が高く、本県では中生にあたる大粒大豆である。

平成23年3月に品種登録された。本県では平成25年度から大豆奨励品種決定調査を実施しており、関東では栃木県が奨励品種に採用している。

(2) 品種の特性

「タチナガハ」に比べて

- ◆ 開花期、成熟期ともに2日程度遅い。登熟日数は同等である。(表1)
- ◆ 主茎長はやや長く、主茎節数および分枝数は同等である。耐倒伏性は「強」である。
- ◆ 莢数は同等～やや少ないが、百粒重は2～3g程度重い大粒である。
- ◆ 粗蛋白含有率は高く、粗脂肪は同等で豆腐などの加工適性が高い。
- ◆ 紫斑病抵抗性「強」、ダイズモザイクウイルスA、B、C、D系統に抵抗性である。
- ◆ ダイズシストセンチュウ抵抗性は「弱」である。
- ◆ 最下着莢節位高が高く、難裂莢性のため、機械収穫適応性が高い。

(3) 栽培上の留意点

- ◆ 収量を確保するため、苗立ち本数は15～18本/m²とする。
- ◆ ダイズシストセンチュウ抵抗性は「弱」であり、過度の連作、ダイズシストセンチュウ被害の発生履歴のあるほ場での栽培は避ける。

2 県内の普及の考え方

「タチナガハ」の後継として、県下全域への導入を図っていく。

平成27年は、県内に展示ほを設置する計画である。

表1 奨励品種決定調査成績(水田研、現地)

区番	品種・系統名	開花期	成熟期	生育中の障害				主茎長 (cm)	主茎 節数	分枝数 (本/株)	莢数 (数/株)	最下着莢 節位高 (cm)	a 当り 全重 (kg)	a 当り 子実重 (kg)	比較 比率 (%)	百粒重 (g)	外観 品質
		(月日)	(月日)	倒伏	蔓化	刈り遅	青立										
水田研	里のほほえみ	8.03	10.29	1	0	0	1	61	13.6	4.4	58.1	10.8	74.1	36.4	93	37.5	3
	タチナガハ	8.01	10.27	2	0	0	3	54	13.1	4.7	68.0	8.2	71.6	39.3	100	34.6	4
川越	里のほほえみ	8.03	11.04	1	0	0	1	64	12.8	4.7	56.2	12.4	-	24.8	143	43.3	-
	タチナガハ	8.02	11.13	2	0	0	4	63	12.7	5.8	45.3	10.0	-	17.3	100	41.1	-
大里	里のほほえみ	8.05	11.10	0	0	0	2	56	12.0	3.9	37.2	15.0	-	40.1	117	45.0	-
	タチナガハ	8.04	11.05	1	0	0	4	57	12.7	3.6	33.7	13.3	-	34.3	100	43.7	-

注1) 水田研のデータはH25、26年の平均数値 播種日 6/24 ・ 現地(川越、大里)のデータはH26年 播種日 6/26

注2) 生育中の障害は0: 無、1: 微、2: 少、3: 中、4: 多、5: 甚 注3) 子実重、百粒重は水分15%換算値

注4) 外観品質は1: 上上、2: 上中、3: 上下、4: 中上、5: 中中、6: 中下、7: 下

表2 裂莢性検定試験成績

品種名	裂莢率 (%)	判定
里のほほえみ	4.3	難
タチナガハ	93.8	易

注1) 東北農業研究センター成績 H17~20年の4ヶ年間平均

注2) 裂莢率は60℃、3時間 (H20年は2時間) の熱風乾燥による。

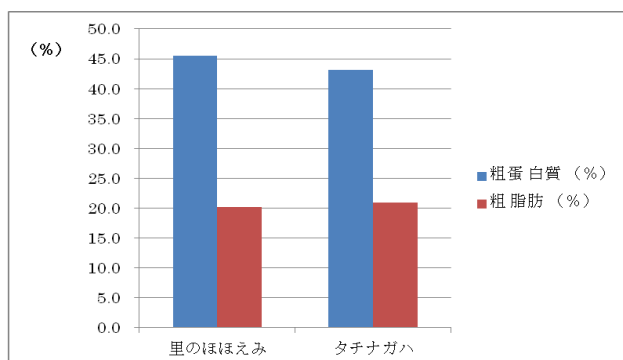


図1 子実成分分析結果(粗脂肪、粗蛋白)



写真1 子実(左:タチナガハ、右:里のほほえみ)



草本(左:タチナガハ、右:里のほほえみ)